

地域のために、みんなと力を合わせて



和田ちゃんより

ボランティアを通してたくさんの人に出会い、たくさんの優しさに触れることができました。仕事とは違うメンバーで楽しいひと時を過ごせ、学生時代のサークル活動みたい!!「青春」している感じがです。

ある日の和田ちゃんの1日

- 5:00 起床 散歩(40分)
- 7:00 荷物の積み込み
- 8:30 オレンジカフェこころ屋会場に到着
- 9:30 オレンジカフェこころ屋開催
- 12:00 オレンジカフェこころ屋終了・片付け
- 13:00 お疲れさまミーティング
- 15:00 帰宅(こころ屋荷物片付け・会計確認)・ゴロゴロzzz

ケアマネジャーの仕事をして10年間続いている中で、認知症の方、認知症の介護をされているご家族の方にたくさん出会いました。ご本人の思いや希望、辛さ、ご家族の介護の悩みや辛い気持ちをお聴きする度に、「何か力になれないだろうか?」「同じ思いを持つ方とのつながりを作れないだろうか?」と思っていました。

若年性認知症のOさんの奥様から、「主人はコーヒーが好きで喫茶店に行くのが楽しみなのだけど、一緒に喫茶店に行っても会話は続かないし、わざわざ出かけずに自宅で飲むようになったの...」と、認知症の方と一緒に出掛けることの大変さをお聴きました。認知症になると外出する機会も減って、地域との交流も減ってしまうのです。ある日、「Oさん、認知症の方や介護をしている人が気楽に行けるカフェを私が開いたら、来てくれますか?」と尋ねると、「うん!行くよ!なんとしてでも行くよ!」とOさんは嬉しそうに答えてくれました。そのOさんの言葉に背中を押され、オレンジカフェ(認知症カフェ)を開くことを決意したのです。周りにいる友人(認

知症介護の経験者、看護師、ケアマネジャーetc)に認知症カフェへの思いを伝え、2015年3月末、認知症カフェを開催する「ボランティアサークルこころ屋」を立ち上げることができました。

そして、2015年の4月、第1回「オレンジカフェこころ屋」は、認知症介護の経験を持つNさんが自宅を開放して下さり、9名の参加者と7名のボランティアの参加で和やかにスタートしました。その後は、町内のデイサービスや施設、団地内の集会所、レストランを貸し切ったりして、いろいろな場所の持ち味を引き出しながら開催しています(参加者は平均40人くらい)。なんと、当初7名だったボランティアも現在は15名に増えています。

「オレンジカフェこころ屋」では、当事者の方も介護をされている方も地域の方も垣根なく交流し、お互いのつながりを作っています。「あの人、今日来なかったけど、体調を崩したんじゃないの?」と心配したり、「次回もこころ屋で会おうね!」と約束したりする会話が自然に出るようになり、地域の方と認知症の方と介護をされている方同士のつながりの場所になっています。

「認知症の方や介護をされている方の力になれないだろうか?」と思っていたことを、周りのみんなと力を合わせて実現できたのは、ボランティアの仲間が存在が大きいと思います。これからも仲間と「オレンジカフェこころ屋」を続けて、地域の方とのつながりを作り、認知症の方やご家族の方が地域で安心して暮らせるお手伝いをしていきたいと思います。



カフェの様子